

そう だい  
総 題 「キリストにある休み」

だい ご か  
第5課 「わたしのもとに来なさい・・・」

きた むつお  
北 睦夫

いち あんそくにち ご ご  
1. 安息日午後

つか もの おもに お もの き やす  
「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」

せいしよ ことば きょうかい げんかん おもて は せいしよ ことば なか いちばんおお もち ことば  
この聖書の言葉は、教会の玄関の表に貼られている聖書の言葉の中で、一番多く用いられている言葉では  
ないでしょうか。今週は、多くの人の心をとらえているこの聖書の言葉の意味を知り、この言葉を語られたイエ  
スとの関係をさらに深めていきたいと思ひます。

に にちようび やす  
2. 日曜日：「休ませてあげよう」

い つか おもに つみ つか つみ おもに ひと  
イエスが言う、疲れと重荷とは、罪からくる疲れであり、罪からくる重荷のことです。あなたたちは、ソドムの人  
たちよりもひどい罪の状態です。だからイエスは、強い命令形で「来なさい」と言ひます。この「来なさい」とい  
う招きに従うときに、真の平安と自由を得ることができひるのです。

さん げつようび くびき お  
3. 月曜日：「わたしの軛を負いなさい」

わたし おもに かれ しん やす え まね ちよくご かれ くびき お めい  
イエスはなぜ、私たちの重荷を彼にゆだね、真の休みを得るように招いた直後に、彼の軛を負うようにお命  
じになるのでしょうか。(マタイ 11 : 29 ~ 30)

に つ せん おおかげ ゆ ふあんてい おもに お ひと じんせい  
それは、荷を積んでいないタンカー船が、大風に揺られて不安定なように、重荷を負っていない人の人生もふら  
ふらして不安定だからです。重荷を負うことによつて人は、安定した人生を送ることができひます。ただその重荷が  
罪の重荷であつたら苦しいものです。同じ重荷を負うならイエスが与えてくれる重荷(軛)を負いたいものです。  
イエスは私を、命をささげるほどに愛して下さつています。その愛にこたえることが軛を負うということ  
です。わたしたちも自分のことを心から愛してくれる人のためだつたら、その方の願ひを聞き、従ひ、喜んでそ  
の方の重荷(軛)を負いたいと思ひるのではないのでしょうか。

よん かようび にゅうわ けんそん もの  
4. 火曜日：「わたしは柔和で謙遜な者だから」

にゅうわ けんそん しんと てがみにしろうくせつ じゅういつせつ しめ  
イエスの柔和と謙遜は、フィリピの信徒への手紙2章6節~11節に、はっきりと示されています。「キリス  
トは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思はず、かえつて自分を無にして、僕  
の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだつて、死に至るまで、それも十字架の死

に<sup>いた</sup>至るまで<sup>じゅうじゅん</sup>従<sup>てつてい</sup>順<sup>お</sup>でした。」なぜイエスは、ここまで<sup>てつてい</sup>徹底してへりくだっておられるのでしょうか。それは、<sup>しんじつ</sup>真実にあなたを<sup>あい</sup>愛し、あなたを<sup>すく</sup>救いたいからです。

## 5. <sup>すいようび</sup>水曜日：「わたしの<sup>くびき</sup>軛<sup>お</sup>は負<sup>お</sup>いやすく」

<sup>かみ</sup>神の<sup>りつぽう</sup>律法<sup>くびき</sup>（軛）に<sup>したが</sup>従<sup>じんせい</sup>う人生は、なぜ<sup>りつぽう</sup>律法<sup>くびき</sup>（軛）に<sup>したが</sup>従<sup>じんせい</sup>わない人生よりも<sup>へいあん</sup>平安に<sup>み</sup>満ちているのでしょうか。  
<sup>こた</sup>答え：<sup>じっかい</sup>十戒の<sup>いちじょう</sup>1 条から<sup>よんじょう</sup>4 条は、<sup>かみ</sup>神と<sup>ひと</sup>人との<sup>かんけい</sup>関係、<sup>ごじょう</sup>5 条から<sup>じゅうじょう</sup>10 条は、<sup>ひと</sup>人と<sup>ひと</sup>人との<sup>かんけい</sup>関係の<sup>まも</sup>守り事です。私  
たちは、<sup>かみ</sup>神と<sup>ひと</sup>人との<sup>かんけい</sup>関係がうまくいくときにはじめて<sup>じんせい</sup>人生が、うまくいきます。<sup>へいあん</sup>平安と<sup>よろこ</sup>喜び、<sup>しん</sup>真の<sup>やす</sup>休みと<sup>じゆう</sup>自由は、  
<sup>しぜん</sup>自然とついてきます。<sup>じっかい</sup>十戒を<sup>おお</sup>大きく<sup>ふた</sup>二つに<sup>ま</sup>まとめたのが、<sup>ふくいんしょ</sup>マタイによる<sup>しんじゅうななせつ</sup>福音書<sup>よんじっせつ</sup>2 2 章<sup>3</sup> 7 節~<sup>よんじっせつ</sup>4 0 節で  
す。ここには、<sup>かみ</sup>神を<sup>あい</sup>愛することと<sup>ひと</sup>人を<sup>あい</sup>愛することが<sup>りつぽう</sup>律法だとあります。

イエスの<sup>くびき</sup>軛は、<sup>りつぽう</sup>律法を守るといよりも<sup>かみ</sup>神と<sup>ひと</sup>人とを<sup>あい</sup>愛するとい、より<sup>せっきよくてき</sup>積極的なものです。<sup>わたし</sup>私たちが、<sup>かみ</sup>神を  
より<sup>あい</sup>愛そう、<sup>ひと</sup>人をより<sup>あい</sup>愛そうとすると<sup>こんなん</sup>困難にぶつかります。しかしそこに<sup>かみ</sup>神の<sup>れい</sup>霊、<sup>せいれい</sup>聖霊が<sup>そそ</sup>注がれるのです！ 私  
たちが、<sup>かみ</sup>神の<sup>めぐ</sup>恵み（<sup>せいれい</sup>聖霊）を<sup>たいけん</sup>体験できるのは、<sup>かみ</sup>神を<sup>あい</sup>愛すること、<sup>ひと</sup>人を<sup>あい</sup>愛することに、<sup>まえむ</sup>前向きに<sup>とく</sup>取り組むときなの  
です。

## 6. <sup>ろく</sup>木曜日：「わたしの<sup>に</sup>荷<sup>かる</sup>は軽<sup>かる</sup>いからである」

「<sup>あしあと</sup>足跡」という詩があります。  
<sup>うみべ</sup>海辺を<sup>ふたり</sup>イエスと<sup>あゆ</sup>二人で<sup>とちゅう</sup>歩んでいます。<sup>ひとり</sup>途中、<sup>あしあと</sup>一人の<sup>あしあと</sup>足跡しかありません。<sup>じんせい</sup>わたしの<sup>もっと</sup>人生で<sup>くる</sup>最も<sup>くる</sup>苦しいときです。  
なぜ、<sup>もっと</sup>最も<sup>くる</sup>苦しいとき、<sup>もっと</sup>最も<sup>ひつよう</sup>あなたを必要としているときに、<sup>ひとり</sup>わたしを<sup>ひとり</sup>一人にしたのですか！とイエスに叫んだ  
とき、「わたしは、<sup>けつ</sup>あなたを<sup>ひとり</sup>決して一人にはしない。まして<sup>くる</sup>苦しいときに、<sup>ひとり</sup>その一人の<sup>あしあと</sup>足跡しかないのは、<sup>あしあと</sup>わたしが、  
<sup>せお</sup>あなたを<sup>し</sup>背負っていたからだよ」という詩です。

「わたしの<sup>に</sup>荷<sup>かる</sup>は軽<sup>かる</sup>いからである」というのは、<sup>せお</sup>あなたが<sup>じゅうじか</sup>背負う<sup>せお</sup>十字架は、<sup>わたし</sup>わたしイエスが、<sup>いっしょ</sup>あなたと<sup>せお</sup>一緒に<sup>せお</sup>背負っ  
ているという、<sup>けつ</sup>イエスの、<sup>みす</sup>決して<sup>おもに</sup>あなたを見捨てない、<sup>お</sup>重荷を<sup>さいご</sup>負っている<sup>せお</sup>あなたを<sup>やくそく</sup>最後まで<sup>ことば</sup>背負うという、<sup>やくそく</sup>約束の<sup>ことば</sup>言葉  
なのです。（<sup>よんじゅうろく</sup>イザヤ<sup>よん</sup>4 6 : 4）